



## 《24名の盛会だった総会 報告》

日時：6月4日（土）午後3：00～

会場：「桜はなび」（金沢市本町）

総会：議案は当日提示、承認

講演：松岡憲吾さん「天狗党」後編

懇親会：4,000円（酒・飲料持ち込み）

＝日展の鑑賞会（有志参加）＝

- ・同日 11:00 県立美術館玄関集合
- ・参加費無料
- ・篆刻に入選した中田副会長、洋画家国友画伯による解説。12時頃終了。

百万石まつりの最中、龍馬会総会を開催。

初めに6月4日午前中「日展鑑賞会」を行いました。4回目の入選を果たされた当会副会長の中田俊郎（聰山）氏及び国友画伯の案内で西洋画と書道を鑑賞しました。

参加者は山田/蛭子/吉田/寺元/朝日/北川/池田/川端 8名でした。

国友画伯から西洋画の制作方法、見るべき視点を解説頂き、更に西洋画と日本画の相違点も教えて頂きました。中田氏からはご自分の入選作品である「篆刻作品」の説明、更に展示書道作品の解説をいただきました。



15時から総会をおこないました。

参加者は

山田/不破/蛭子/中田/佐藤/守山/吉田/紐野/中城/松岡/朝日/北川/小幡/谷/池田/加藤/堀野/松下/川端/森川/稲原/戸田/国友 計24名、

なおかつ越前龍馬会前田会長の臨席も賜りました。そして議案を承認いただきました。

引き続き松岡氏より先日の花見会の続編である「天狗党」後編の講演を頂きました。実に真実味のある内容で龍馬会講演の真骨頂でありました。

引き続き懇親会が開催され久しぶりに参加会々員及び新入会員の発言がありました。



## 《特報》

### 全国大会 第34回龍馬 World in 旭川

前夜祭：9月17日（土）旭川トーヨーホテル2階  
参加費：¥9千円

本大会：9月18日（日）12:30  
旭川市公会堂 無料

交流会：9月18日（日）17:00  
アートホテル旭川 1万円

エスカーション：9月19日（月）敬老の日  
（チラシ参照）

## 志士たちが活躍した長崎とは⑭

### 後藤象二郎

今回も志士とは言えないが、結果的に志士を支援した。つまり後藤象二郎は土佐三伯の一人である（他は板垣退助、佐々木高行）。土佐藩参政でありながら幕末長崎に滞在し、多くの時代変革に携わった。

我々から見て大きな功績として

① 不倶戴天の龍馬と和解し土佐海援隊を誕生させた

② 大政奉還の立役者となった。

土佐藩士の長男として生まれる。11歳の時、父が早世したため義理の叔父である有名な吉田東洋の扶助のもと育ち且つ学び、その後要職を任せられる。東洋は龍馬が所属していた土佐勤王党により暗殺された。

その後江戸で英語や航海術を学んだ。

藩政に復活後、山内容堂の信頼を得て藩幹部となる。土佐勤王党武市半平太を獄に入れ葬った。そして長崎に派遣され上海も視察した。

長崎には慶応2年(1866年)に来て約1年間滞在した。浜町(はまんまち)に土佐商会を開設した。

実務責任者は岩崎弥太郎である。象二郎はこの間9隻の艦船を購入した。借金は山のように積みあがった。弥太郎がそのしりぬぐいをした。

慶応3年に清風亭で亀山社中の龍馬と会話し亀山社中をそのまま引き受け「土佐海援隊」とした。

亀山社中は薩摩藩の息がかかっていたが、それを土佐藩が引き受けることとなった。会計係は弥太郎である。亀山社中には土佐勤王党関連の隊員が多かったので互いに不倶戴天の敵であった。しかし両者には世界に目を向けるべしとの共通点も多かった。

慶応3年には海援隊が四国大洲藩より賃貸した「いろは丸」が瀬戸内海で紀州藩所有の明光丸に衝突され、鞆港に引き続き長崎で交渉を行った。

龍馬は手練手管で掛け合ったが最終的に象二郎と紀州側で締結に至ったと云われている。交渉力は抜群である。

一方大政奉還にいたる道は有名なのでここでは省こう。近年は異論もあるようだが、一応龍馬が提案し、象二郎が工作し、山内容堂が建白し徳川慶喜がこれを受け入れ宣言したこととなっている。

これは多大なる貢献であり、幕府と諸藩が協力し合い次の政権を生み出せる機会であった。

ところが丁度その時、福岡黒田藩藩士がイギリスの水兵二人を長崎花街「丸山」にて殺害したイカルス号事件で、英国パークスから海援隊士が疑われた。

そのため時間を無駄にし、大政奉還前提で王政復興を行い武力倒幕回避の薩土盟約が解消され、薩長の幕府に対する強硬路線に主導権を奪われてしまった。おかげで維新以降土佐は薩長に後れをとることとなった。

明治以降は新政府の要職を重ねるが明治6年の征韓論に敗れ西郷隆盛、板垣退助たちと共に下野する。すでに権利を保有していた長崎湾にある高島炭鉱の経営に本格的に取り組んだ。典型的武士の商法のため見事に失敗する。それを弥太郎に売却した結果、三菱のドル箱の一つとなる。政才はあったが商才はなかった。それで政治の世界に戻った。政党結成や大臣を歴任する。正二位勲一等伯爵を贈られた。

逸話としては板垣退助と共に日本人で最初のルイヴィトン顧客と言われている。東京近郊4ヶ所に別荘を保有していた。象二郎の評価は「大人で

あり、豪放な性格で、決断力と実行力を兼ね備えていた」というものである。

陸奥宗光に至っては「彼は中国いにしへの王朝に成功すべき怪傑であり、たまたま現在の日本に出現した」という趣旨である。この様に彼に対する人物評価は極めて良好である。しかし粘りや詰めが甘く、実業や商売には向いていなかった。

参考資料：長崎新聞 Wikipedia



土佐商会跡 参考資料：NHK

## ●年会費納入のお願い

**令和4年4月から来年3月迄の年会費：  
¥3,000-**

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

**郵便局 口座No 00780-5-38627**

**口座名義 金沢龍馬会**

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

## 【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお願いします。心の中に常“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第33号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

\*\*\*\*\* 事務局\*\*\*\*\*

## 金沢龍馬会

会 長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

[jitianxinfu@hotmail.com](mailto:jitianxinfu@hotmail.com)

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

[n-toshio@muji.biglobe.ne.jp](mailto:n-toshio@muji.biglobe.ne.jp)

## 金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

